



不可思議尊を帰命せよ



また、阿弥陀經に「不可思議の功徳を稱讚す一切諸仏」とあります。この阿弥陀經を通して、形として表わしてきたのが仏の世界であり、お荘嚴なんです。

迷える世界

「一向専修無量壽佛」といわれていますが、私たちは一向佛ではないです。色々などしてしまふ。だから、お寺に足しげく通う人に限って「家の若い者はお寺に参らん」なんて言われますが、仏さまは何処においでになられるのかご存知ですか？

佛法は毛穴から

私たちは、荘嚴された中でご縁を戴く。戴くものを自分ものにするため覚えようと思いますが、覚えなくてもよいのではありませんか。大根だつて鍋につけておけば、味が染みこんでいくのです。

自力作善

往生とは、死に場所を探している訳ではありません。生きていることを問い続けて生きる事が往生です。だから私たちは死んで完全燃焼していく。だから涅槃というのです。だから滅度なのです。ところが私たちは娑婆に未練を残していく。

「御文」

人というものは、本当のことを言われると頭にきますよね。素直に受け入れられないのです。おまけに、身近な者に言われると、お前にだけはというのが出てきます。

赤羽別院報 第43号
発行所 真宗大谷派 赤羽別院 観宣寺
〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
Tel・FAX (0563)72-2308
Eメール akabane_betuin@katch.ne.jp

講師プロフィール
織田 慶雄(おだ けいゆう)
昭和25(1950)年 愛知県西尾市生まれ
大谷大学大学院 修士課程卒業
現 岡崎教区教化団団長
雅楽同好会主宰
西尾市 宿禰寺68世住職
茶道裏千家・華道末生流指南

れが無いこれが無いと、辺地憐れな私に振り回されて人の世を過ごし、宝の山に入りて宝を見ずして終るが如しと、蓮如さまの『御文』に書かれています。

お寺に来ない人は、まだ雑木林の中で迷い歩いている。まだ自分にはお寺に用事が無いと思っている人。今日お参りの皆さんはお寺に参る歳になってきた人達です。お寺に参るのに年齢の制限はありません。

私の口から出た念仏は、真実を願うための願いがあつた。その声を聞いた人を目覚めさせるお用きですから、私が称えて私が目覚めていくのが念仏だと思つていいが遠い。近くにいて誰かが、ああそうであったかど気付く、その姿に出合つて私が救われていくのです。それが「如来所以興出世」です。



今日から明日まで生きているかが大切で、果てるのは結果なのです。種を蒔いたら芽が出てくるかといえはそうではない。条件を整わなければ芽は出てきません。

「御文」は、読む側も聞く側も戴くんです。眼を眼り聴いていると、判らないなりに、少しずつ身に染みてくるのです。

でも、大概は鬼を持っていてその後には必ず仏様がついておられます。ですから「悪を転じて徳を成す正智」、それが本願念仏の美りなのです。

お浄土の荘嚴の中に身を置くと、昔の人は「佛法は毛穴から染み込む」と仰つた。心を弘誓の佛地に樹て」とは、今この辺地憐れにある私たちが浄土に移植される。即ち、「お寺に参る身になる」ということ。それが善です。

無辺な御恩徳を戴きながら、目先の小さな穴から見て、あれが無いこれが無いと、辺地憐れな私に振り回されて人の世を過ごし、宝の山に入りて宝を見ずして終るが如しと、蓮如さまの『御文』に書かれています。

お寺の掲示板

人はみな 宝の山に居りながら 足らぬ足らぬと 何嘆くらん 第十四組・平等寺

別院行事のご案内	声明研鑽会 しょうみやうけんさんかい 7月2日(木) 午後7時~8時30分 8月6日(木) 同 9月3日(木) 同
夏の御文 げのおふみ	講師 第8組 宿禰寺 織田 顯慶師
赤羽別院地域総代会総会	7月15日(水) 午後1時 法話 第10組 蓮正寺 稲垣 智師
暁天講座 きょうてんこうざ	7月15日(水) 夏の御文終了後 8月25日(火) 午前6時 講師 第7組 本宗寺 堀田 護師
秋季彼岸会 しゅうきびがんえ	9月22日(火) 午後1時30分 法話 第11組 惠教寺 大河内真慈師
報恩講 ほうおんこう	10月14日(水) 午後1時30分 法話 第25組 守福寺 渡邊 尚子師
美ら歌コンサート ちゅうりやうたコンサート	10月15日(木) 午前10時~午後1時 法話 第13組 長壽寺 和田 純信師
晨朝法話 じんじょうほうわ	7月13日(月) 第12組 本誓寺 足利 憲師 7月28日(火) 同 德行寺 山下正敬師 8月13日(木) 第13組 明榮寺 小谷香示師 8月28日(金) 同 養林寺 東陽芳幸師 9月13日(日) 第14組 精昇寺 佐々木なよ師 9月28日(月) 同 千福寺 山田淺順師

仏弟子29名が誕生 鍵役による剃刀・帰敬式を執行

帰敬式(おかみそり)とは、自ら仏・法・僧の三宝に帰依し、仏弟子として歩み始める大切な儀式です。当別院では、本年も4月11日に本山鍵役・信悟院殿のお剃刀のもと、厳かに帰敬式が執行され、新たに29名の仏弟子が誕生しました。鍵役出仕、真宗宗歌・三帰依文唱和に続き「剃刀の儀」が始まると、肩衣を着けお坐す受式者は、一様に緊張の面持ちでした。鍵役の執行の辞では、「この日を機縁に益々佛法を聴聞・讃嘆し、宗祖親鸞聖人が願うにされた本願念仏のみ教えを糧に真実の道を歩まれ、法義相統・宗門護持に努められますように」と述べられました。



また、「法名伝達」では、ひとり一人に「おめでとございませう」と優しく声をかけて手渡されました。受式者を代表しての「誓いの言葉」では、第14組・真宗門徒としての自覚に立ち、朝夕のおつとめに励み、聞法に精進する旨を力強く表明された。

この厳粛な場に立合って、「おかみそり」の意義を改めて学び直した次第です。受式された方々には、是非、法名を大切にしてくださいませ、日頃より名告って下さいませ。また、生活の中心に「南無阿彌陀仏」を据えて、お手次の寺院はもとより、別院の法座にも、多くの法友をお誘い合せて、足をお運び下さることを切に願っています。



高岡組門徒会研修 一行47名がご来院

肌寒が残る3月16日、豊田市の高岡組一行47名が赤羽別院へ来院・参拝された。この春、各組で組門徒会員の改選が行われ、高岡組でも14名の女性会員を加えた新会員のもとで、任期3年の門徒会が始まった。この度の来院は、これまで尽力された旧会員の方々と、新たに会員になられた方々との新旧役員引継ぎを兼ねた「春の門徒会研修」として開催されたもので、新10名の門徒会員39名と、住職8名が参加された。



ご一行の皆さま

ご一同、当別院の山門の威容に驚嘆の表情を見せつつ、お参りに入堂し、三浦輪番より当別院の沿革や教化センター・設立化センターの取り組みなどの説明が行われた。この後、高岡組の織田組

初夏の陽射しが眩しい5月28日、大阪教区第2組一住職と門徒の合同研修会。一行22名が来院・参拝された。法山寺住職・藤原憲組長ら一行は、蓮如上人所縁の碧南市・志仁寺を参拝された後、当別院に立ち寄りされた。



ご到着のご一行

住職と門徒の合同研修会 大阪教区第2組一行がご来院

のがあり、教化事業の充実、人材の育成などが急がれるところではなからうか。翌日は、三河一向一揆の中心であった安城市・本證寺を参拝され帰路につかれた。この研修会は、3年毎に住職と門徒の親睦を兼ねて実施されているとのことである。

安藤誠也師の法話 報徳会を厳修

久しぶりに好天に恵まれた4月11日、午前の帰敬式に続き報徳会が厳修された。法要の後、鍵役のあいさつ・門徒代表鈴木幸雄氏の感話があり、第15組隨順寺住職・安藤誠也師による法話となった。

師は常々、誰にでも解るように易しく仏法を伝える事を中心掛けてきた、という語を言葉どおり、難解な用語を避けて、著名人の平易な文章に丁寧な説明を加えることで、宗教の本質を明らかにされた。

最後に、宗教をとりまく現代の世相を厳しくとらえ、「宗教は、自我の欲望を満足させる道具ではない。本尊一本当に尊ぶこと」が、あきらかなる道が宗教である」と話された。

報徳会は一念仏の道場である別院の護持に励まれる方々の御徳を讃えてお勤めし、聞法して「法要」です。教えを尋ね、次世代の人々に伝え続ける「法義相統」を改めて確かめる一日となった。

護法有志を偲ぶ 殉教記念法要を厳修

紫陽花が咲き始めた6月5日、本年も殉教記念法要が厳修された。この法要は、明治4年の大浜騒動に連座し、29歳の若さで処刑された石川台嶺師をはじめとする護法有志40名を顕彰し、その精神に学ぶため、今年も本山鍵役・信悟院殿ご参修のもとに、関係3ヶ所で厳修するもので、何れの会所も大勢の方々が参りされた。

石川台嶺師所縁の第16組蓮泉寺(安城市小川町)では、午前11時より「護法有志霊前にて法要が勤まった。この聖は明治16年の台嶺師復権を受け、明治20年の17回忌に際し、蓮泉寺門徒が寺の隣地に建てたものである。引き続き、西尾市町町の閑静な住宅地内に建つ「殉教記念碑」前でお勤めされた。この碑は、多くの方々のご



赤羽別院の歴史 その2

赤羽別院親宣寺の歴史は、額田郡上六名村出身の江戸公方の御家人・本目勝左衛門親宣が、御両親の菩提寺を三河の地に建立すべく、その場所を模索中、赤羽城の跡地に古念仏道場が荒廃して、放置されていたこと始まる。

親宣は、この地が菩提寺建立に相応しいと考え、庶民の信仰の場所として寺の再興の意志を、時の西尾藩主・土井式部少輔利忠に請願したところ、その意が聞き届けられ赤羽城跡地が与えられた。

元禄13(一七〇〇)年、親宣は西尾藩より寺院建築の認可を賜り、樹木が生い繁る緑豊かな台地の森に菩提寺を創建したが、この時期を特定する



本目家の墓碑

尊奉事項の全てが調い、中央高座に御本尊が安置され、静寂の中に威厳を示す堂宇であったと伝承されている。以来、地元はもとより近郷在住の人々の、真宗信仰の拠り所となった。

念願の菩提寺・親宣寺を創建した親宣は、江戸において病に倒れ、宝永元(一七〇四)年68歳の天寿を全うしたが、一度も親宣寺の姿を目にすることはなかった。

寺院関係者は言うに及ばず、門信徒一同は落胆の極みであったが、有為転変は世の習いであり、親宣寺の歴史を後世に伝承することが、故人に対する恭敬と讃嘆供養になる。

親宣夫妻の墓碑は、親宣寺境内墓地奥部に、両親の墓碑と並んで建立されているが、三百年余の歳月を経た今日でも、本目家の末裔の消息を承知する術もなく、墓前には春秋の彼岸・盆・正月といえども供花もみられず、正に無縁仏の墓の様相となっている。

今後は、当別院の務として、折々の供花・献香等の墓碑の維持を図るべきものと史料される。

組が取り組んだ 住職研修あれこれ

廃仏毀釈を撤回させた 大浜騒動を学ぶ 第10組

大浜騒動は、明治維新後、新政府がもたらした廃仏毀釈の施策に対し、石川台嶺以下で結成された三河護法会の若手僧侶が、飛領地として現在の碧南市他を領有した上総国菊間藩に対し「異」を唱えて起った事件である。第10組では、この大浜騒動に関する基礎知識を深めるための住職研修会が、去る5月23日殿西寺において、この事件や歴史に精通する会所住職・藤原肇師の司会・講師により開催された。

騒動に関する記録映像を鑑賞後、各種資料を通して知識を深め、それぞれの寺が事件とどのように関わったかを発表するなかで、騒動に関するテキストもあり、緊張感溢れ

新政府が目論む廃仏毀釈の政策に抗する事件は他にもあるが、双方に死者が出たのは大浜騒動だけといわれている。浄土真宗のみならず、日本仏教の起死回生をもたらした三河護法会有志の勇氣ある行動は、私たちが子々孫々に伝承していかなければならない。



住職が挙って 法話実践学習会開催

第14組



学習会のようす

去る4月15日、第14組では安専寺において、浄土真宗本願寺派吉良町・教達寺住職小野正信師を招き、住職を対象とした法話実践学習会が開催された。

最初に、親鸞聖人の求道の姿を、善導大師の言葉「自信をあげて改めて確認された。経は教であり鏡(事実を写し出す)である」とし、「聖人の鏡板」に言及された。さらに、正信念仏偈・偈前の文の解釈を詳しく説かれた。

後半は、直釋・家族葬といった、直面する現実的問題をとり上げて説明された。

最後の質疑応答では「通夜・葬儀を仏法に合う場とどう生かせばよいか」という問いにも、具体的法話例をあげて答えられた。

「法話」を研修対象とし、宗門以外の講師を迎える今回の企画は初めてで、新たな試みによる成果が期待される。

満堂の賑わい 親と子の集い

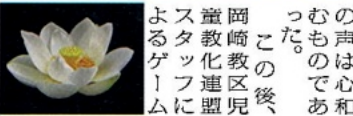
第10組
坊守会

学校が春休みの3月29日、第10組坊守会主催の「親子の集い・花まつり」が、蓮正寺において開催された。

本堂内は、白い大きな象さんの絵や子ども達が作った紙の花で、囃子から柱まできれいに飾られ、花まつりに相応しい荘厳な、みなでお祝いをした後、みなでお釈迦さまに甘茶をかけた。

無阿弥陀仏の「南無」ということとあり、若い一家揃っての歓声があちこちで挙っていた。

この後、人形劇では「たぬきどうざき」が演じられ、人と人との関わり大切なこと、そして、一人ひとりが尊く大事な人であることが教えられ、幼い子どもたちが領きながら鑑賞する姿もあり、満堂の参加者には等しく満足感が溢れていた。



この後、人形劇では「たぬきどうざき」が演じられ、人と人との関わり大切なこと、そして、一人ひとりが尊く大事な人であることが教えられ、幼い子どもたちが領きながら鑑賞する姿もあり、満堂の参加者には等しく満足感が溢れていた。



花まつり お寺に集う子ども達



笑顔で蓮仏する子どもさん

別院の桜が満開となった3月31日、一色町仏教会主催の花まつりが開催された。

協力寺院15ヶ寺を巡るスタンダラー方式で、5ヶ寺以上お参りして、ゴールの養林寺を目指すものである。

当日は好天に恵まれ、別院には子ども達にまじり、親子ずれ・ご夫婦等百名以上の方々がお参りされた。

御高齢の方が「昔は、この時期だね。お寺でも賑わっていましたね。懐かしい」と話された。「花御堂」の誕生仏に甘茶をかけて、また始めて別院にお参りされた方は、立派な山門に感動の様子であった。

森林寺では、子供たちに可愛いお菓子と賞状が渡され、楽しい一日となった。

五ヶ寺を巡って おみやげゲット

一色町
仏教会

別院の桜が満開となった3月31日、一色町仏教会主催の花まつりが開催された。

協力寺院15ヶ寺を巡るスタンダラー方式で、5ヶ寺以上お参りして、ゴールの養林寺を目指すものである。

当日は好天に恵まれ、別院には子ども達にまじり、親子ずれ・ご夫婦等百名以上の方々がお参りされた。

御高齢の方が「昔は、この時期だね。お寺でも賑わっていましたね。懐かしい」と話された。「花御堂」の誕生仏に甘茶をかけて、また始めて別院にお参りされた方は、立派な山門に感動の様子であった。

森林寺では、子供たちに可愛いお菓子と賞状が渡され、楽しい一日となった。

第9組・良興寺門徒一行23名

真宗本廟・春の法要に参拝



桜花爛漫の4月1日、第9組良興寺門徒23名が、本山において厳修された「春の法要」に団体参拝をした。

京都に到着すると、先ずは大谷相廟に向かい、親鸞聖人の墳墓に手を合わせた。小雨に煙る参道は一段と趣を増し、京都の風情を満喫することができた。

この後、涉成園(釈尊邸)でお斎として粥膳をいただいた。粥は、この日の辰朝にお供えされたお日供さんのお下がりで、器は百年余も前から使用され、桜の木で造られた朱の漆で仕上げられたものであった。

午後、先立つ延塚知導師の記念講演では、いいところも、悪いところも全て私なんだから都合良く考え、計らう自分自身を見直しなさい」とお示し下さった。

午後法要の特徴は音楽法要で行ったことであるが、普段耳慣れない楽器や合唱の声に戸惑いを覚える人が多く、帰りの車内での全員の一息スピーチではこのことに話題が集中した。

午後法要・親鸞聖人誕生会(音楽法要)に出向くと、御影堂は参拝者で溢れんばかりであった。一行は後方ではあったが、聖人の御影の真正面に座を構えることができた。

午後法要・親鸞聖人誕生会(音楽法要)に出向くと、御影堂は参拝者で溢れんばかりであった。一行は後方ではあったが、聖人の御影の真正面に座を構えることができた。



小雨に煙る大谷相廟参道

良興寺老院・三浦教照師が語る 戦中・戦後の体験談を聞く会



戦後70年を経た今、戦争について、昭和19年から終戦に到るまでの事柄が話題の中心となった。

大谷大学2回生の時授業がなくなり、勤労奉仕で陸軍の工場で大砲の玉を造ったことや北緯50度のロシアとの国境に深い溝を掘ったこと、また「戦時教育」といわれるようなことはなかった等々を断片的に話された。

また、伊勢湾台風で本堂や諸堂が倒壊滅失した赤羽別院について、春・秋の彼岸会や報徳会・報恩講等がお勧めされる折には、境内に露店が立ち並び参拝者が参道や堂の内外に溢れる程の賑わいがあった等、貴重な話を伺うことができた。

戦後70年を経た今、戦争について、昭和19年から終戦に到るまでの事柄が話題の中心となった。

大谷大学2回生の時授業がなくなり、勤労奉仕で陸軍の工場で大砲の玉を造ったことや北緯50度のロシアとの国境に深い溝を掘ったこと、また「戦時教育」といわれるようなことはなかった等々を断片的に話された。

また、伊勢湾台風で本堂や諸堂が倒壊滅失した赤羽別院について、春・秋の彼岸会や報徳会・報恩講等がお勧めされる折には、境内に露店が立ち並び参拝者が参道や堂の内外に溢れる程の賑わいがあった等、貴重な話を伺うことができた。

医療法人 社団福祉会

URL http://www.takasu-hp.or.jp E-mail info@takasu-hp.or.jp takasuhp@illac.ocn.ne.jp

- 高須病院 Tel:(0563)72-1701(代) Fax:(0563)72-1785
244-0495 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中113番地1
□ 訪問介護センター Tel:(0563)72-0830 Fax:(0563)72-0829
- 血液透析センター Tel:(0563)72-0877 Fax:(0563)72-0525
- 高須病院 通所リハビリセンター Tel:(0563)72-1701(代) Fax:(0563)72-1714
- はず訪問看護ステーション Tel:(0563)72-0877 Fax:(0563)72-0527
- 訪問介護 高須ヘルパーステーション Tel:(0563)72-0531 Fax:(0563)72-0535
- 居宅介護支援事業 はずケアサービスステーション Tel:(0563)72-0528 Fax:(0563)72-0717

- 介護老人保健施設 高須ケアガーデン Tel:(0563)72-1985 Fax:(0563)72-0501
西尾市一色町赤羽上郷中120番地 444-0495
- 高須デイサービスセンター Tel:(0563)74-1077 Fax:(0563)74-1078
西尾市一色町赤羽北郷字18番地 444-0495
- グループホーム 高須 Tel:(0563)74-2071 Fax:(0563)74-2072
西尾市一色町赤羽北郷字18番地 444-0495
- サービス付き高齢者向け住宅 サンライズ高須 Tel:(0563)72-9781 Fax:(0563)72-9782
西尾市一色町赤羽北郷字20番地 1444-0495
- サンライズ高須 デイサービス Tel:(0563)72-9785 Fax:(0563)72-9786
- サンライズ高須 ヘルパーステーション Tel:(0563)72-9811 Fax:(0563)72-9812

おかげさまで創業115年

仏壇・墓石

西尾店 年中無休
西尾市徳次町下十五夜 38-1
0563-57-0763

お洗濯 仏具 寺院仏具

碧南店 水曜定休
碧南市栄町 2-115 (栄町けんしん東)
0566-46-7610

愛知県下に14店舗!

お仏壇・墓石の
永田竹佛壇店 0120-150-761

仏弟子になつて

第12組 浄徳寺門徒 浦野 千代子

桜の花びらを流す夜来の雨が止んだ4月11日朝、身支度を整え爽やかな気分で、帰敬式(おかみそり)の会場となる赤羽別院に入りました。主人が亡くなって早十三年。浄徳寺の松平御住職には、月命日のお参りに来ていただき、正信偈・恩徳讃と一緒に唱和してまいりました。

今更、帰敬式を受けるきっかけとなったのは、赤羽御坊新聞第41号の「帰敬式を受式しませんか!」の記事が目にとまったからです。両親が付けてくれた慣れしたしんだ名前。そして、仏様が新たに付けてくださった第二の名前を受けてみたいと考え受式を決めました。



法名伝達を受ける浦野さん

和・恩徳讃齊唱・鐘役様執行による「剃刀の儀」と続き、仏弟子としての名告りである法名をいただいた際には、思わず身が引き締まる思いでした。大勢の方々のお勤めの声が高らかに堂内に響き渡る中、「南無阿弥陀仏」が深く深く心に染み込みました。戴いた法名・釋尼千華にはとても満足しており、「今日も皆が健やかに過ごせますように」と、私の毎朝のお勤めが始まりました。

夏の勉強会のお知らせ

第8組

同朋大会・青壮年の集い
8月28日(金)午後7時30分
会所 西浅井町・宿縁寺
同朋教室

第9組

吉良町吉田・正覺寺
8月21日(金)午前9時30分
会所 吉良町吉田・正覺寺

第10組

同朋の集い
8月22日(土)午後2時30分
会所 八ッ面町・瑞安寺

第11組

真城義齋師を講師に招き、夏期真宗講座を開催

第12組

祖父江 佳乃師
8月22日(土)午後1時30分
会所 細池町・浄徳寺

第13組

夏期真宗講座
7月23日(木)午後1時30分
会所 一色町池田・慶徳寺

第14組

お盆過ぎに複数会所において開催を予定。詳細未定

春季彼岸会を厳修

昔から「暑さ寒さも彼岸まで」と云われる如く、寒暖を肌で感じつつ仏事に思いを寄せ、大切な御仏事・春季彼岸会が、当別院では3月20日から3日間厳修された。



声谷師の法話

初日の法話は、第11組浄徳寺・太藤順世師が、スボーツ選手や著名人の談話を引用し、独自の視点で「他力・私」について話された。

「吾輩は猫である」の一節から「不満で一生を暮らす人」、また、尺とり虫や蚕を事例に「如来の眼からみた人間の生きざま」についてのお話をいただいた。

葬儀あれこれ

葬儀? 争儀?

皆さんもご存知のように新年度から相続税法が改正され、関心をお持ちの方も大勢おみえになるかと思えます。

故人には配偶者だけでなく両親も子供もなく、相続権者は兄弟だけでした。

念でいっぱいです。平成27年4月1日発令 教化センター・総務 就任 島山 貴利師 第9組・精立寺衆徒

赤羽御坊新聞懇志 第8組 宿縁寺 第9組 妙隆寺 第10組 法園寺 第10組 嚴西寺 第23組 願正寺

赤羽御坊新聞が、逼迫する別院の財政事情に鑑み、経費削減に資するため編集システムを変更しました。

仏教語辞典

その1

安心(あんじん)

今日では、安心(あんじん)と発音する。他宗では昔から「心が安らかな状態」、更には「疑いなき不動の信心」を意味している。

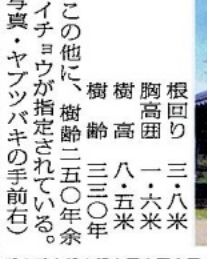
第11回御坊俳壇・川柳

俳句(順不同) 杜鵑花もゆ 戦禍を偲ぶ 翁句碑 塔頭の 跡は煙や 柿若葉 心太 まだ捨てぬ夢 ありにけり

赤羽御坊新聞が、逼迫する別院の財政事情に鑑み、経費削減に資するため編集システムを変更しました。



満開のシダレザクラ



ヤブツバキ

この他に、樹齢二五〇年余のイチヨウが指定されている。(写真・ヤブツバキの手前右)

編集室

本誌「赤羽御坊」は、逼迫する別院の財政事情に鑑み、経費削減に資するため編集システムを変更しました。